

北日本新聞 6月7日 6面

「県内の犬猫殺処分」の記事を読んで  
助けたい命

福野中学校 1年 鶴居 遙花

「県内の犬猫殺処分」という見出しを見て、  
私はどきどきとしました。気になつて読んでみ  
ると、記事の内容は女優の浅田美代子さんら  
が、2020年の東京五輪までに都内の犬猫  
の殺処分ゼロを目指すキャンペーンを始めた  
というものでした。環境省によると、12年度

の全国の殺処分数は、こう8447匹、猫12  
万3420匹の計16万1867匹だそうです。  
私は想像できないほどの犬や猫が殺処分さ  
れていると知り、驚きました。富山県は、12  
年度は犬102匹、猫825匹の計927匹  
と書かれています。全国で2番目に少ない  
そうですが、まだまだたくさん命が失われ  
ているのだと感じました。  
なぜこんなになくさんの犬や猫が殺処分さ  
れてしまふのだらう。そう思いながら読んで

いると、飼い主の事情で、飼えなくなったり、なるとして自治体に引き取られたり、捨てられたり、逃げ出して所有者不明になったりした。私や猫が処分されるということが分かりました。私は、そんな飼い主の気持ちとつで動物の命が消えてしまふなんて、許せないと思いましたが、私の家で飼っていた猫は18年間生きて、今年の春に死んでしまいました。おと一緒だったから、たくさん思い出がふきました。一度飼うと決めたなら死ぬまでそばにいてあげるのが飼い主としての義務だと思います。飼い主の勝手ではなく、犬や猫が殺されてしまうことは、絶対にあってはならないことです。

富山県では、犬猫の殺処分数を23年度には06年度の75%減となる473匹（犬65匹、猫408匹）まで減らすという取り組みと目標を定めたそうです。もちろん、将来の目標はゼロです。早くその目標が達成できたらいいですが、ただそれを望んでいるだけでは達成

は難しいと思います。記事には、県動物管理センターでは毎週、子犬・子猫を譲りたい人と飼いたい人を仲介する譲渡会を行っている。と書かれていました。県内には犬や猫を飼いたいと思っっている人はたくさんいると思います。そこで、私は市町村でも譲りたい人と飼いたい人を募集して、県と連携をとって譲渡会を行えば、もっとたくさんの人に子犬や子猫を引き取ってもらえるのではないかと考えました。譲渡会をもっと身近な行事にすれば、殺処分される犬や猫を減らせろと思います。そして、みんながこの現状を知り、ペットを飼っている人も飼っていない人も、生き物の命を大切にすると、いう意識を持つことが、殺処分ゼロにつながるのではないのでしょうか。

# 社説

2014.6.7

## 県内の犬猫殺処分

「人間の勝手で殺している命なんてあるはずがない」  
女優の浅田美代子さんが、2020年の東京五輪までに都内の犬猫の殺処分ゼロを目指すキャンペーンを始めた。「東京が動物福祉先進都市だとアピールする絶好の機会」とし、全国にも運動を広げる方針という。

地球での生命誕生の神秘を思うまでもなく、命の貴さは人間も動物も同じだ。富山は10、11年度と2年続けて全国で最も犬猫の殺処分が少ないなど、取り組みが進んでいる。さらに意識を高め、東京の運動とも協調しながら、全国に先駆けて殺処分ゼロを実現したい。

環境省によると、12年度の全国の殺処分数は犬3万8447

匹、猫12万3420匹の計16万1867匹。殺処分を減らすため、全国の自治体が飼い主から引き取る数を23年度までに半減させる目標を掲げている。

県内では県と中核市の富山市で犬猫の処分が行われている。12年度は犬102匹、猫825

匹の計927匹で、福井(822匹)に次ぎ、全国で2番目に少なかった。3番目の石川(1110匹)を含め、北陸3県は少ない方だ。

県は、08年度に策定した県動物愛護管理推進計画を見直し、14年度から23年度まで10年間の

取り組みと目標を定めた。犬猫の殺処分数を23年度には06年度の75%減となる473匹(犬65匹、猫408匹)まで減らすとしている。もちろん、将来の目標はゼロだ。

取り組みを進める上で欠かせないのはやはり、飼い主の意識

「かわいがって懐いているから、うちの子」は迷子にならない」と思わず、連絡先を付けた首輪をしておくのも重要だ。人間と同じように、年を取って認知症になることもある。愛するペットならばこそ、万全の備えをおきたい。

立山町の県動物管理センターは毎週、子犬・子猫の譲渡会を

# 全国に先駆けてゼロに

行っている。譲りたい人と飼いたい人を仲介しており、一定の効果も挙げていると見える。

浅田さんらは今後、保護を訴えるイベントを開くほか、活動を本格的に進めるNPO法人を設立するという。

「ティアハイム」と呼ばれる動物保護施設が整備され、一部の例外を除いて殺処分が行われていないドイツを参考に、都内にティアハイムを設立することや、自治体に保護された犬猫の新たな飼い主を見つけるマッチングの機会を広げるよう求めていく。

東京で「ゼロ運動」が始まったのはいい機会である。富山も「動物愛護先進県」として、県民挙げて取り組みたい。